

ライプニッツの級数



$$\frac{1}{1} - \frac{1}{3} + \frac{1}{5} - \frac{1}{7} + \frac{1}{9} - \frac{1}{11} + \dots = \frac{\pi}{4} \quad \dots (*)$$

今回は、1, 3, 5, 7, 9, 11, ……という奇数の数列に、初項から順に(-1)をかけていったものの逆数をとって、無限に加えていくと $\frac{\pi}{4}$ に近づいていくという公式(ライプニッツの公式)を証明します。無限級数の形をしているので「ライプニッツ級数」とも呼ばれる有名な公式です。

$$1, \overset{-3}{\times(-1)}, \overset{5}{\times(-1)}, \overset{-7}{\times(-1)}, \overset{9}{\times(-1)}, \overset{-11}{\times(-1)} \dots \quad \text{【奇数列に順に(-1)をかける】}$$

この数列の第 n 項は $(-1)^{n-1}(2n-1)$ と書けるので、その逆数の無限級数の和

に 記号 Σ を使うと、(*)は
$$\sum_{n=1}^{\infty} (-1)^{n-1} \frac{1}{2n-1} = \frac{\pi}{4}$$
 と書けます。

証明 まず、 $\tan^n x$ の定積分 $I_n = \int_0^{\pi/4} \tan^n x \, dx$ ($n=0, 1, 2, \dots$) を考える。

$$\begin{aligned} I_k + I_{k+2} &= \int_0^{\pi/4} \tan^k x (1 + \tan^2 x) \, dx = \int_0^{\pi/4} \tan^k x \cdot \frac{1}{\cos^2 x} \, dx = \int_0^{\pi/4} \tan^k x \cdot (\tan x)' \, dx \\ &= \left[\frac{1}{k+1} \tan^{k+1} x \right]_0^{\pi/4} = \frac{1}{k+1} (1-0) = \frac{1}{k+1} \quad \dots \textcircled{1} \end{aligned}$$

①の右辺の分母が奇数になるように、 $k \rightarrow 2(k-1)$ を代入すると、

①は、 $I_{2(k-1)} + I_{2k} = \frac{1}{2k-1}$ となり、さらに両辺に $(-1)^{k-1}$ をかける。

$$(-1)^{k-1} (I_{2(k-1)} + I_{2k}) = (-1)^{k-1} \frac{1}{2k-1} \dots \textcircled{2}, \quad k=1, 2, \dots, n \text{ として加えると}$$

$$\begin{aligned} \textcircled{2} \text{の左辺} &= I_0 + I_2 - (I_2 + I_4) + (I_4 + I_6) - \dots + (-1)^{n-1} (I_{2n-2} + I_{2n}) \\ &= I_0 + (-1)^{n-1} I_{2n} = I_0 - (-1)^n I_{2n} \quad \text{と途中の項が打ち消し合い、初項と末項が残る。} \end{aligned}$$

$$\textcircled{2} \text{の右辺} = \frac{1}{1} - \frac{1}{3} + \frac{1}{5} - \frac{1}{7} + \frac{1}{9} - \frac{1}{11} + \dots + (-1)^{n-1} \frac{1}{2n-1}$$

このように数列の第 n 項までの和を、無限級数の和に対して「部分和」という。部分和の n を無限大に大きくすれば($n \rightarrow \infty$)、無限級数の和が得られる。

山脇の超数学講座 No. 48

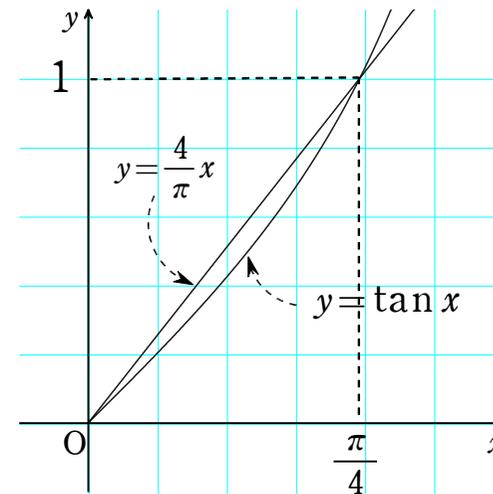
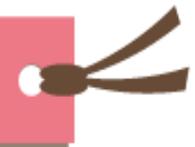


図1

$$I_0 = \int_0^{\pi/4} \tan^0 x \, dx = \int_0^{\pi/4} 1 \, dx = [x]_0^{\pi/4} = \frac{\pi}{4}$$

図1のように、積分区間 $0 \leq x \leq \frac{\pi}{4}$ で $y = \tan x$ のグラフは下に凸であり、

$$0 \leq \tan x \leq \frac{4}{\pi} x \implies 0 \leq \tan^{2n} x \leq \left(\frac{4}{\pi}\right)^{2n} x^{2n}$$

$$\begin{aligned} 0 < I_{2n} = \int_0^{\pi/4} \tan^{2n} x \, dx &< \int_0^{\pi/4} \left(\frac{4}{\pi}\right)^{2n} x^{2n} \, dx = \left(\frac{4}{\pi}\right)^{2n} \left[\frac{1}{2n+1} x^{2n+1} \right]_0^{\pi/4} \\ &= \left(\frac{4}{\pi}\right)^{2n} \left(\frac{\pi}{4}\right)^{2n} \left(\frac{\pi}{4}\right) \frac{1}{2n+1} = \frac{1}{2n+1} \cdot \frac{\pi}{4} \end{aligned}$$

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{2n+1} \cdot \frac{\pi}{4} = 0 \quad \text{だから、はさみうちの原理で、} \quad \lim_{n \rightarrow \infty} I_{2n} = 0$$

したがって、

$$\begin{aligned} \sum_{n=1}^{\infty} (-1)^{n-1} \frac{1}{2n-1} &= \lim_{n \rightarrow \infty} \sum_{k=1}^n (-1)^{k-1} \frac{1}{2k-1} = \lim_{n \rightarrow \infty} \{ I_0 - (-1)^n I_{2n} \} = I_0 - 0 \\ &= \frac{\pi}{4} \quad \text{となって、(*)が証明された。} \quad \text{終} \end{aligned}$$

コメント 従来の「円周÷直径」という方法、あるいは円に接する正多角形を円に近づけていく方法で、 π の近似値を求めるのではなく、無限級数の和から求めるという画期的な方法を生み出したが、級数の収束が遅いので実用的でなく、実際には他の無限級数による方法が用いられている。